

大阪の人材サービス会社

南砺・相倉で研修36年

大阪市の人材サービス業「クイック」が、南砺市の相倉合掌造り集落を社員研修の場として活用し続けている。和納勉会長(70)が集落のたまたまに感動し、研修に茅刈りや棚田の田植えを取り入れ、世界遺産の維持にも貢献している。36年目を迎えた今秋は新入社員を中心に142人が参加を予定し、22日は第1陣の33人が茅刈りに取り組んだ。



茅を刈る和納会長(右)と社員
|| 南砺市相倉

茅刈りや田植え「社員のふるさと」

和納会長は1980(昭和55)年の創業から間もなく、女性社員の実家が相倉で民宿を営んでいた縁で現地を訪れ、「社員共通のふるさとにしたい」とほれ込んだ。過疎化が進む中、集落保存への協力を約束して合掌造り家屋1棟を研修施設として借り受けた。

研修では社員の個人的な成長を重視しており、研修施設でいろいろを囲んで社の理念などをじっくり学ぶ。二十数年前には合掌造り家屋の屋根材を確保するための茅刈り、十数年前には棚田の田植えを研修に取り入れた。

創業当初の社員数は十数人だったが、現在は子会社「カラフルカンパニー」(金沢市)などグループ企業を含めて約1500人の規模となった。和納会長は「相倉で育ててもらったと思っ

ている」と振り返る。22日は和納会長が陣頭指揮し、茅をきれいに無駄なく刈り取るよう指導して回った。

交通費や宿泊費、社員の出張手当など、茅刈りの研修に要する費用は500万〜600万円、田植えは600万〜700万円といる。和納会長は「泊まって体験する滞在型観光の推進に、これから何か手伝えないか考えたい」と一層の貢献に意欲をみせている。

2019年10月23日(水)

富山新聞 朝刊

県内統合面 掲載